

節電リーダーの取組について

今年度も町では、昨年に引き続き公共施設の節電に取り組んでいます。

家庭や学校での節電推進を図るため、7月に五霞東・西小学校5・6年生を対象に「節電リーダー」の任命式を行い、任命書を交付しました。また、節電リーダーとして、今年度の夏の節電の取組について、作文を書いていただきました。各学校ごとの最優秀作品を紹介いたします。※町ホームページには、各学年ごとの優秀作品を紹介しています。

私たちに出来ること

五霞東小 6年 田中 綾乃

私の家では、節電を心がけています。東日本大震災が発生してからさらに気を付けるようにしています。

今年の夏も私の家で節電をしました。冷そう庫の開け閉めを早くしたり、クーラーの温度を高くしたりなどしました。どんなに暑くてもお昼ぐらいいまでは、窓を全開に開けたりせん風機を付けたりして、クーラーをがまんしました。クーラーを付けてからは、家族が一つの部屋に集まるようにして、夜も早めに消すことを心がけました。ねる時には、せん風機を付けっぱなしにせず、タイマーをかけました。このようにして暑い夏を乗りこえました。

一年中家族みんなでやっていることは、使っていない部屋の電気はすぐに消すこと、けい光灯が二つある電気でも、明かりは一つだけしか付けません。

これから寒くなる時期には、電気ストーブやエアコンを付けることがあります。やはり一つの

部屋に集まることを毎年やっています。

私は、東日本大震災直後の計画停電のことをふと思い出すことがあります。私の住んでいる五霞町では計画停電がありませんでしたが、お母さんと、暗くなつてから幸手市の方面へ出かけた時のことです。計画停電の真っただ中で、信号は消え、警察官が何人もいて事故がおきないように、交差点で車をゆう導していました。その時、昼間でも信号が消えるって事は大変なことなのに、暗い中で信号が消えるって事はおそろしいことだと思いました。また、計画停電中に閉めているお店もたくさんありました。

私は、そのようなことを目の当たりにして、電気のありがたさがとてもよく分かるので、これから私達にできることを出来るだけ多くやっていききたいです。

電気の大切さ

五霞西小 6年 植竹 未優

みなさんは、東日本大震災の被害を覚えていますか。

私は、その日家に帰ると、庭も家の中も、物が散らかってておどろきました。しかしそれよりも、停電したり、けいたい電話がつながらなかったりしたことがとても不便で、不安に感じました。停電していたので、夜は家の中も真っ暗でろうそくの明かりで一晩を過ごしました。私の家は、おばあちゃんやおじいちゃんもいるので、暗闇の中で生活することがとても心配でした。

また、けいたい電話もつながらず、お父さんとなかなか連絡が取れずに不安だったことを覚えています。

この震災で、日々の電気の大切さや必要性を改めて感じました。

この経験をきっかけに、私にもできる節電法を考えました。身近なことでは、使っていない電化製品のコンセントをぬくことやエアコンの設定温度を上げるなど簡単なことから節電ができることを知り、夏休みにはエアコンをなるべく使わずに、せん風機を使ったり冷蔵庫の開け閉めを素早くしたりして、節電を心がけました。

電気は、本当に大切な物だと分かったので今の気持ちをお忘れずにいきたいです。

お問い合わせ
建設環境課 生活環境G
☎(84)3618 (直通)

住民基本台帳システム等を 自治体クラウドに移行します

1月14日に、住民基本台帳システム等をこれまでの所有型からデータセンターを利用したサービス利用型の自治体クラウドに移行します。

自治体クラウドとは、現在、役場にサーバ機器を設置して管理運営している住民データを専用回線のネットワークを使い、機器等を共同利用して管理運営するものです。

基幹業務システムの自治体クラウド移行は、常陸大宮市、那珂市、かすみがうら市、五霞町の4市町で共同着手しており、茨城県内で初めての共同利用構築となります。

本町において、これまでは、住民データのバックアップを本町庁舎を第1次、データセンターを第2次とする2段階で安全に保管してきました。しかし、大規模災害が起きた場合は、バックアップデータを利用できるようにするまでに時間が掛かります。

そこで、最新の情報化技術を使用した自治体クラウドにより、安心安全なデータセンターを利用して住民皆様の大切な

データを亡失することなく、また、大規模災害時でも必要最低限の業務継続が可能となります。

また、ネットワーク及びデータセンターは情報セキュリティの高いものとなつていきますので、個人情報の漏えい等についても心配ありません。

